

授業科目名・形態	成人看護方法論Ⅱ 演習	必修・選択の別	必修	単位数	2
科目担当者氏名	佐藤純子・渡邊知子・今野 修	実務経験の有無	有	開講期	2年前期・後期

【授業の主題】

急性期、回復期、クリティカルな状況にある成人期の対象と家族の特徴とニーズを理解し、その特徴と家族への看護援助方法を学ぶ。また、機能障害別に症状の特徴を理解し、成人期の対象の特性を踏まえた看護援助方法を学ぶ。

【到達目標】

1. クリティカル状態の患者・家族の特徴と看護援助について理解する
2. リハビリ期にある患者の特徴と必要とされる看護援助について理解する

【授業計画・内容】

前期) 担当：佐藤・渡邊

- 第 1 回 クリティカルケア看護の考え方 (佐藤)
 第 2 回 クリティカルケアを必要とする人の特徴と看護 (佐藤)
 第 3 回 リハビリテーション看護の考え方 (渡邊)
 第 4 回 リハビリテーションを必要とする人の特徴と看護 (渡邊)
 第 5 回 呼吸器系の障害のある患者の看護 (佐藤)
 第 6 回 呼吸管理とその看護 (佐藤)
 第 7 回 循環器系の障害のある患者の看護① (佐藤)
 第 8 回 循環器系の障害のある患者の看護② (佐藤)
 第 9 回 消化器系の障害のある患者の看護① (佐藤)
 第 10 回 消化器系の障害のある患者の看護② (佐藤)
 第 11 回 生体防御機能の障害のある患者の看護① (佐藤)
 第 12 回 生体防御機能の障害のある患者の看護② (佐藤)
 第 13 回 感覚器系の障害のある患者の看護 (佐藤)
 第 14 回 人工呼吸器装着患者の看護と呼吸リハビリ (ゲストスピーカー：呼吸療法認定士)
 第 15 回 急性期看護の事例展開とまとめ (佐藤)

(後期) 担当：今野・渡邊

- 第 16 回 中枢神経系の障害のある患者の看護① (渡邊)
 第 17 回 中枢神経系の障害のある患者の看護② (渡邊)
 第 18 回 運動器系の障害のある患者の看護① (今野)
 第 19 回 運動器系の障害のある患者の看護② (今野)
 第 20 回 リハビリテーション看護に必要な看護技術 (グループワーク) (今野)
 第 21 回 リハビリテーション看護に必要な看護技術 (グループワーク) (今野)
 第 22 回 障害受容に対する看護援助① (渡邊)
 第 23 回 障害受容に対する看護援助② (渡邊)
 第 24 回 創傷ケア (今野)
 第 25 回 感染症予防対策 (今野)
 第 26 回 クリティカルケアに必要な看護技術 (グループワーク) (今野)
 第 27 回 クリティカルケアに必要な看護技術 (グループ発表) (今野)
 第 28 回 クリティカルケアに必要な看護技術 (演習) (今野)
 第 29 回 クリティカルケアに必要な看護技術 (演習) (今野)
 第 30 回 まとめ (今野)

【授業実施方法】 講義、演習、グループワーク

【授業準備】 解剖生理学、各種疾患について復習しておいてください。

【教科書等】 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 (医学書院)、系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 (医学書院)

【参考文献】 適宜、授業で紹介します

【成績評価方法】 前期・後期毎に試験を実施し、合わせて 100 点とする。試験 (80%)、課題提出・受講態度など (20%) を総合的に評価します。

【主な関係科目】 成人看護学概論、成人看護方法論Ⅰ・Ⅲ、成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ、病態治療学Ⅰ・Ⅱ

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

総合病院で多くの部署を経験。幅広い体験から、多様な方向性から看護を考えていくことができる。それを講義の中で、体験談として話して、看護のイメージを膨らませたい。

【学生へのメッセージ】

クリティカル期・回復期の特徴を学び、観察することの大切さ、患者さんはもちろんのこと周囲への配慮を学んで欲しいと思います。解剖学・生理学を復習し、学習に臨んでください。